様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３２５２１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０２２７

研究課題名（和文）倉敷市蔵「薄田泣菫文庫」の調査及び関連書誌の作成と分析

研究課題名（英文）Investigation of Kurashiki-shi's "SUSUKIDA Kyuukin library", making on a bibliography and analysis

研究代表者
庄司　達也（SHOJI, Tatsuya）

東京成徳大学・人文学部・教授

研究者番号：６０２７５９９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の成果は、倉敷市が所蔵する「薄田泣菫文庫」の資料群の調査と分析を、倉敷市、薄田泣菫顕彰会、就実大学吉備地方文化研究所等の協力を得て、飛躍的に進めたことにある。その資料群が有する文学研究に於ける価値を明らかにし、倉敷市が計画し進めた『薄田泣菫宛書簡集』の刊行に大きく寄与した。また、研究者グループと地方自治体とで行う研究活動に於いて、協働の意義とその有する可能性について考究し実践する機会となった。

研究成果の概要（英文）：We were able to advance arrangement and investigation of data by cooperation of Kurashiki city, The SUSUKIDA Kyukin kensyokai, Research Institute of Kibi Region Culture.We have elucidated the literary value of the material.We have cooperated in the publication of "Letters to SUSUKIDA Kyukin" by Kurashiki city.We got a meaningful result for the research activities by the group of researchers and local government.

研究分野：日本近代文学

キーワード：薄田泣菫　大阪毎日新聞　メディア　倉敷　明治詩　小天地　ジャーナリズム　地方文化

１．研究開始当初の背景

本研究グループは、これまでに科学研究費補助金の助成を１度受け、薄田泣菫関連資料を所蔵する岡山県倉敷市との連携を構築し、「倉敷市薄田泣菫文庫」の資料の調査と分析を進めてきた。そして、その過程で得た情報をシンポジウム、マスコミへの発表などを通じて広く一般に公開することを心がけてきた。また、その研究成果は、論文の執筆、発表や学会での研究発表、報告などの機会を得ることで学界にも多く問うてきた。

本研究の調査は、薄田泣菫という詩人、ジャーナリスト、随筆家という多分野に亘り活躍した人物を対象として据えているため、〈文学〉という枠組みに拘らない視座の獲得のもと、多面的で且つ立体的に展開する必要があると認識するに至った。そのために、倉敷市を介して地元倉敷市で活動し大きな成果をあげてきた薄田泣菫顕彰会、地方文化の研究につくしてきた就実大学吉備地方文化研究所との連携を密にし、研究に於ける協働関係を構築してきた。

２．研究の目的

本研究課題は、倉敷市が薄田泣菫のご遺族より数次にわたって受贈してきた約1,800点を数える薄田泣菫関係資料の整理と分析、そしてその成果の公開を目指し、倉敷市をはじめとする関係機関、団体らと協働して行うものである。それらのことを通して、明治期に於いては詩人として活躍した薄田泣菫の詩業と共に、編集者の一人として関わった雑誌『小天地』を中心とした当時の詩壇の状況の一端を明らかにすることを目指す。また、『小天地』は総合文芸誌であるが、これまでその史的位置づけについて確かなものとされてきたとは云い難いため、その点の解明も視野に入れる。さらに、大阪毎日新聞社の学芸部部長を務めたジャーナリストとしての経歴から、文壇に止まらぬ当時のメディア状況に関わって重要な位置にあったことを証したい。

また、倉敷市が 2014 年より刊行を開始する『倉敷市蔵薄田泣菫宛書簡集』の編集協力を中心とした形で、我々研究者と地域、そして地方自治体の三者による協働作業の有り様を精力的に考究、実践し、その可能性を押し広げたい。

３．研究の方法

これまでの活動でもその中心に据え、定期的に開催してきた倉敷市での資料調査と分析を継続的に行った。また、関係する資料を所蔵する全国の図書館や文学館、資料館などの機関への訪問や問合せを行うなどして、これまで以上に幅の広い情報の収集を心がけた。なお、地元倉敷市の薄田泣菫顕彰会や就実大学吉備地方文化研究所との協働関係の構築は既に果たされているので、本研究はこれらの組織と積極的に連絡を取り、助力を得ることで、研究の進展を促した。

また、2013 年度、2014 年度には資料を所蔵する倉敷市との共同開催の形をとり、一般の市民に研究成果を公開するシンポジウムを開催した。最終年度にあたる 2015 年度には、関連する研究課題を設定する篠崎美生子恵泉女学園大学教授の組織する研究グループと合同で、国内外で研究活動を行う研究者を招聘してのシンポジウムを開催し、その成果を学会にも広く問う場を設けた。

具体的に展開した現地倉敷での調査活動の実施月、実施回数とシンポジウムは以下の通り。

2013 年度　８月、12 月、３月の３回の調査と検討会。「薄田泣菫文庫の調査研究から見えてきたこと」に、研究代表者の庄司達也と研究分担者の掛野剛史が参加（８月）。

2014 年度　４月、６月、８月、11 月、３月の５回の調査と検討会。「文学座談会」に、研究代表者の庄司達也と、研究分担者の片山宏行、掛野剛史の本研究グループの全員が出席（８月）。

2015 年度　６月、８月、11 月、１月、３月の５回の調査と検討会。「20 世紀中国表象研究会」（代表：篠崎美生子恵泉女学園大学教授）との合同シンポジウムを実施。研究代表の庄司達也が報告者として登壇した。

４．研究成果

本研究課題の成果は、先ずは倉敷市が所蔵する「薄田泣菫文庫」の資料群の調査と分析を飛躍的に進めたことにある。前回委の研究課題により、既に所蔵リストの作成と資料体の撮影作業はおおよその処で一定の成果をあげている。本研究課題はそれらを更に精度の高いものとすべく、詳細な分析と検討を加えることを目指した。その過程で本研究課題が対象とする資料群が有する文学研究に於ける価値も、更に明らかにしてきたと云える。本研究課題は、それまでの成果を踏まえ、倉敷市が計画し進めた『薄田泣菫宛書簡集』の刊行に対して執筆者として加わり、積極的な関わりを持ち、企画そのものに大きく寄与した。『薄田泣菫宛書簡集』は、「作家編」、「詩歌人篇」、「文化人篇」の 3 巻をもって構想され出版されたが、学界に対する貢献の度合いも低いものではない。

また、薄田泣菫が関わった雑誌『小天地』について、これまでの文学研究では過小な評価を得てきた印象を有しているが、本研究グループの調査と分析の結果、今後は更に研究を深め、正当な評価を得るべき雑誌であることが明らかとされた。この点を深めるべき課題も提示されたことの意味は大きいだろう。

加えて、地域で活動する研究グループや機関、また近接する研究課題に取り組む研究グループとの協働により、これからの文学研究

に止まらぬ地域及び地方研究の在り方について深く考究する機会を持つことができ、新たな可能性と課題を得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　７　件）
庄司達也「（研究ノート）自筆資料に向き合うということ　―芥川龍之介研究への不安と期待と」『日本近代文学研究』2014 年、91 集、176～181 頁、査読有

片山宏行「「無名作家の日記」解説にかえて」『文芸もず』、2014 年、15 号、35～41 頁、査読無

片山宏行「芥川龍之介の死」同上、42～52 頁、査読無

庄司達也「聴講ノート『支那戯曲講義／塩谷助教授』解析の持つ意味」恵泉女学園大学平和文化研究所『芥川龍之介上海』2015 年、73～76 頁、査読無

片山宏行「「蘭学事始」解説にかえて」（『文藝もず』、2015 年 16 号、32～37 頁、査読無

片山宏行「芥川龍之介の死（承前）」同上、38～46 頁、査読無

掛野剛史「文壇醜聞と友情　―薄田泣菫と平尾不孤」『文学』、2016 年、17 巻 3 号、38 頁～48 頁、査読無

【新聞報道】（同種の内容がいくつかの新聞で報じられたものも多いため、一部を省略した）
① 「文豪と幅広く交友　『泣菫宛て書簡集』研究者が倉敷で座談会」『山陽新聞』2014 年８月
② 「手紙で探る文豪たちの素顔　倉敷市役所で文学座談会　柳原白蓮の手紙収録へ薄田泣菫宛の書簡集に」『産経新聞』2014 年８月
③ 「倉敷の詩人泣菫を知る　市が文学座談会　文豪の素顔が見える書簡解説」『読売新聞』2014 年８月
④ 「泣菫、歌人らと親密　与謝野鉄幹・晶子夫妻、島崎藤村･･･　倉敷市が書簡集 187 通大半未発表」『山陽新聞』2015 年４月
⑤ 「与謝野夫妻窮状せつせつ　薄田泣菫へ書簡　『稿料御送附たまはらば』」『読売新聞』2015 年４月
⑥ 「土井晩翠の書簡を発見　尊敬する薄田泣菫宛て　留学先のローマから」『日本経済新聞』2015 年４月
⑦ 「『明星』廃刊　『経営下手なるため』　鉄幹、泣菫に『泣き言』　倉敷で書簡発見」『毎日新聞』2015 年４月
⑧ 「泣菫広い人脈　倉敷市書簡集第３弾『文化人篇』」『山陽新聞』2016 年３月
⑨ 「親友の窮地泣菫が訴え　坪内逍遙の書簡発見　倉敷」『毎日新聞』2016 年３月
⑩ 「文化人から届いた 204 通　倉敷市『薄田泣菫宛書簡集』３巻目発刊」『産経新聞』2016 年３月
⑪ 「文人たちの息づかい　出身地の倉敷市が収集　産官学が協力」『毎日新聞』2016 年４月

〔学会発表〕（計　２　件）
庄司達也「芥川龍之介と大阪毎日新聞社への入社」国際芥川龍之介学会 2013 年度大会、2013 年 11 月 2 日、ハイデルベルク大学（ドイツ）

掛野剛史「大正期大阪毎日新聞の読者認識と出版展開　―倉敷市蔵薄田泣菫文庫資料から」日本出版学会 2014 年度春季研究発表会、2014 年 5 月 17 日、國學院大學

〔図書〕（計　６　件）
倉敷市編（庄司達也、片山宏行、掛野剛史）『倉敷市蔵　薄田泣菫宛書簡集（作家篇）』八木書店、2014 年、235 頁

庄司達也（共著）宮坂覺編『芥川龍之介と切支丹物　―多声・交差・越境―』翰林書房、2014 年、573 頁

倉敷市編（庄司達也、片山宏行、掛野剛史）『倉敷市蔵　薄田泣菫宛書簡集（詩歌人篇）』八木書店、2015 年、249 頁

庄司達也（共著）日本近代文学館編『近代文学草稿・原稿研究事典』八木書店、2015 年、305 頁

庄司達也（共編著）庄司達也編『芥川龍之介ハンドブック』鼎書房、2015 年、208 頁

倉敷市編（庄司達也、片山宏行、掛野剛史）『倉敷市蔵　薄田泣菫宛書簡集（文化人篇）』八木書店、2016 年、235 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
庄司　達也（SHOJI　TATSUYA）
東京成徳大学・人文学部・教授
研究者番号：60275998

(2)研究分担者
片山　宏行（KATAYAMA　HIROYUKI）

青山学院大学・文学部・教授
研究者番号： 60233756

掛野　剛史（KAKENO　TAKESHI）
埼玉学園大学・人間学部・准教授
研究者番号： 00453465